

# *子どもの貧困を考える* **ネットワークニュース**

## 2022年 9月号

隔月発行

発行:子どもの貧困問題 大阪ネットワーク理事会

### <子ども政策で先進の明石市からの便り>

明石市と当会との懇談要請と質問を出しましたところ、早速、丁寧な回答を頂きました。

ただ、懇談は、コロナ対策でどこからの要請も受けていないとのことで、今回は断念しています。

回答の中に、詳細は明石市のホームページで・・・、との案内を受けて、事務局で視聴しました。

子ども食堂など、個別政策だけではなく、明石市の子どもを中心に据えた都市政策の綿密な計画が読み取れ感嘆します。また、泉市長が、2022 年 6 月 7 日に参議院内閣委員会で報告された「子どもファースト」の市政運営は、実践に裏づけられた確信に満ちたものです。「市政ガイド 2022」と併せ、ぜひご視聴ください。

#### <子どもファーストで、街は活性化>

子ども中心の都市政策がもたらしたものを、一言でいうなら「まちの好循環」です。人口が増える、子どもが増える 出生率 1.7、街に来る人が増える、地価が上がる、税収が増える、91%の市民が住みやすいと言う、など、思い付きではなく、綿密な計画を市民と共に進めてきた結果の「いま」が、豊富な資料とともに報告されています。

同時に強調されているのは、この政策遂行に必要な「人」「金」の投入です。発言では、「国のルール守ってたら子どもが死ぬ」「明石市はグローバルスタンダード」「人も金もいる!」と。でも、その結果が好循環を生み出したのです。

自治体の役割は、「住民の安全と健康と福祉をまもること」、それを、子ども中心に実践していくと、誰もにやさしい街になった、という明石市。コロナが治まったら、ぜひ行って・見て・聞いてみたいものです。

#### <市民を不幸にするカジノ誘致にまい進する大阪市と、対極の明石>



明石市の誇る5つの無料化は、所得制限なし、「親の収入で子どもを差別するなどセコイことしない」って素敵ね。





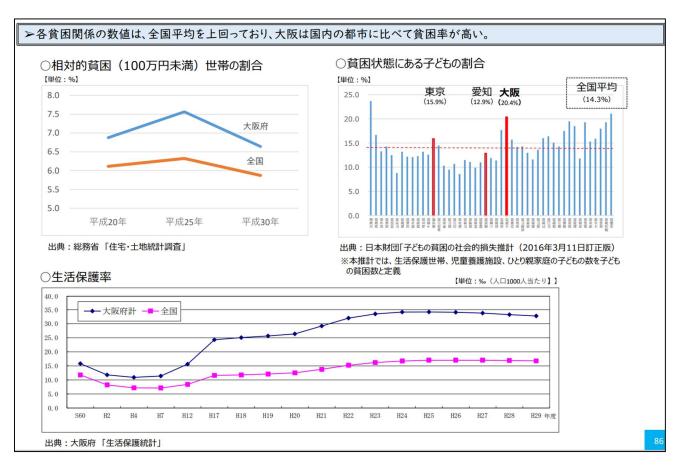
明石市 URL は https://www.city.akashi.lg.jp/seisaku/shichou\_shitsu/shise/shicho/douga.html

## 大阪は、国内他都市に比べて貧困率が高い!

この指標は、万博推進局・有識者ワーキンググループに提出された議論素材のうち、「現在の大阪の位置・ポテンシャル」の資料の1枚です。年間所得100万円以下の相対的貧困世帯・貧困状態にある子どもの割合・生活保護率、ともに全国を大きく上回っており、地方自治体が早急に解決しなければならない課題のはずです。別の資料には、非正規労働の指標も出されています。

相対的に低下している大阪の経済力高揚のために、考え出されたのが夢洲開発であると善意に解釈したとしても、あまりにも負の要素が多いのが「夢洲」であり、「IR・カジノ」です。

このまま、理性的な考察も議論もなく強行されると、待っているのは「大阪市倒産劇」です。しかも、議会を独占している「大阪維新」の独裁の裏でうごめく、土建・観光・金融の利権あさりと制度蹂躙が、傷をさらに大きくします。皮肉なことに、資料には「民が支えてきた自治都市」と「大阪の先駆性評価」もあります。なお、万博関連責任者は高橋朋幸氏(三菱総合研究所 西日本営業本部長兼万博推進室長)です。



本資料は、大阪市ホームページの万博推進室および I R推進局の資料で公開されています。 貧困問題を考えるうえで、行政が発出する情報は、政策立案の基礎であり運動の力です。今後も、 我々ネットワークでは、このような情報を皆さまにお届けできるよう、研鑽します。

file:///C:/Users/fujin/Desktop/大阪府有識者会議資料%20-%20